

岩手県埋文センター文化財調査報告書第24集

# 蝦夷森古墳群第4次発掘調査報告書

— 県道盛岡・鶯宿温泉線改良事業関連発掘調査 —

(財) 岩手県埋蔵文化財センター

## 序

岩手県は古くから縄文の宝庫といわれて参いましたが近年縄文時代のみでなく、各時代にわたって多くの遺跡、遺物が発見されております。

宝庫といわれても遺跡は有限であり、その保護には文化財行政にたずさわる関係者のみではなく県民こぞって心を配っております。一方県民生活をより豊かにすることも望まれ、各種の開発事業も推進されております。この埋蔵文化財の保護と開発事業の調整を行ない、よりよい方向へと進むよう望んでおります。

民間企業による開発と共に、行政による開発も活発化し、特に本県の場合、東北自動車道関連と共に農業基盤整備事業が大規模に行なわれております。農業基盤整備事業は而による開発のため多数の遺跡が一挙に湮滅する恐れがあります。

本年度調査致しました盛岡市太田蝦夷森古墳、九戸郡軽米町長倉遺跡も農業基盤整備事業にかかわる遺跡でございます。又両者とも周辺において過去に調査が行われ、太田蝦夷森古墳においては蕨手刀、勾玉をはじめとして多くの副葬品を出土させ長倉遺跡では縄文時代後期の遺物が多量に出土しております。

今回の調査においては、両調査とも遺跡の範囲外の部分を行なったと思われ、僅かに遺物を採取したにとどまりました。しかしこの様な地味な調査が、埋蔵文化財保護のためには必要な事であると考えております。同時に地形と遺跡とのかかわりについて種々の資料を得る事ができました。

今後、両地方における調査に、今回調査の資料が活かされる事を希望いたし、両調査にご協力下さいました各位に厚く感謝申し上げます。

昭和 56 年 3 月

(財) 岩手県埋蔵文化財センター

理 事 長 新 里 盈

## 蝦夷森古墳群

1. 遺跡所在地 岩手県盛岡市上太田第14地割字蝦夷森
2. 事業主体 岩手県
3. 事業名 県道盛岡・鶯宿温泉線改良事業
4. 調査主体 (財)岩手県埋蔵文化財センター
5. 調査担当者 主任専門調査員 国生 尚 専門調査員 畠山靖彦
6. 調査期間 昭和55年9月16日～10月18日
7. 調査対象面積 1,800 $m^2$
8. 発掘面積 900 $m^2$
9. 遺跡記号 E Z 80
10. 協力機関 盛岡市教育委員会

# 目 次

## 序

I 調査に至る経過 .....	1
II 位置、地形 .....	1
III 基本層序 .....	2
IV 蝦夷森古墳群 .....	2
V 調査方法 .....	3
VI 遺 構 .....	3
VII 遺 物 .....	4
VIII ま と め .....	4

## 図 版 目 次

図版1 位置図 .....	6
2 地形図 .....	7
3 調査範囲図 .....	8
4 旧河川検出状況（A-1、A-2地区） .....	9
5-1 溝検出状況 .....	10
5-2 旧河川西端発掘状況 .....	10
6 旧河川検出状況（B地区） .....	11
7 旧河川検出状況（C地区） .....	12
8 溝発掘状況（C地区） .....	13
9-1 遺構検出状況（東から） .....	14
9-2 溝精査状況（ // ） .....	14
9-3 旧河川（S-05）断面（ // ） .....	14
10-1 A-2地区礫群出土状況（ // ） .....	15
10-2 B・C地区礫群出土状況（西から） .....	15
11-1 須恵器片 .....	16
11-2 須恵器片 .....	16
12-1 土師器片 .....	17
12-2 陶磁器片 .....	17

## I 調査に至る経過

岩手県においては、農業立県、食糧自給を目指し農地の改善を永年進めてきている。盛岡市の西部にあたる太田地区も大圃場とするため整備事業が昭和50年から進められてきている。

この整備事業に合わせて、岩手県は関連道路の整備にも取り組んできた。県道太田橋一つなぎ線は拡幅と側溝整備工事が行なわれる事となり、岩手県教委文化課と県土木部道路建設課との間において遺跡の取扱いについて協議が行なわれた。拡幅工事に伴う遺跡は1ヶ所であるが、その遺跡は過去に数多くの副葬品を伴出させた群集墳の蝦夷森古墳群である。この古墳群の範囲が確定されておらず、道路拡幅部分が遺跡にかかるか不明であった。県教委文化課はこの範囲を確認するため、地上よりボーリング探査を行ない、残存敷石範囲を推定した。その結果拡幅部分には敷石の存在が薄い事が判明した。又地形的にも現存する一基の載る面より一段低位になる事が解った。これらを総合的に判断し、県教委文化課と県道路建設課との間で発掘調査することに同意した。

発掘調査は県道路建設課からの委託によって(財)岩手県埋蔵文化財センターが行なうことになった。

(瀬川司男)

## II 位置・地形

**位置** 本調査地点(図版1、2、3)は北上川と雫石川の合流点から西に約6kmの位置にあり、北緯39°41'16"、東経141°04'45"の地点にある。本地点より東へ2.7kmに志波城跡があり、北へ0.9kmで雫石川である。

調査範囲は、平面直角座標第10系におけるX-34,655~34,670km、Y+21,060~21,140kmの範囲にあって標高は約140mである。

**地形** 雫石川はいくたびか変遷していることが知られている。第1期河道は本地点より南に位置し、第2期河道は本地点のすぐ北にある段丘縁下を流れたと推定され、さらに東下して志波城の北辺を侵蝕流失せしめたものと考えられている。

本地点は第2期河道による河岸段丘上にあるが、段丘堆積物上の火山灰層序にもとづく区分によれば沖積段丘(砂礫段丘Ⅲ)である。地形区分によれば、台地(日詰台地)となる。

表層は堆積層が深いため、全般的に湿気を含み、乾燥することが少ないため、多湿黒ボク土壌の系統に属する粘土火山腐植型土壌である。

佐嶋与四右衛門 北上川の蛇行と雫石川の影響 岩手史学研究No.52 昭和44年

北上山系開発地域土地分類基本調査 盛岡 岩手県

### Ⅲ 基本層序

本調査における旧河川の検出された地区は別として、古代の遺構検出が可能であると思われる地区について、基本層序を観察、検討した結果は次のとおりであった。

I 層	15~30cm	灰褐色土	シルト	耕作土
Ⅱ-1層	2~5	暗赤褐~にぶい黄褐色土	シルト	酸化鉄集積層
Ⅱ-2層	4~12	黒褐色土	シルト	
Ⅲ 層	0.5~2	明褐色土	硬い	酸化鉄集積層層
Ⅳ 層	25~45	暗褐色土	シルト	
V 層	10~50	褐色土	シルト	(少し粘性がある)
Ⅵ 層	不明		砂礫層	

昭和44、45年の調査報告によれば基本層序は次のとおりである。

I 層	黒色土	耕作土
Ⅱ 層	黒褐色土	粘壤土
Ⅲ 層	黄褐色土	砂壤土(地山) 周溝検出面

両者には多少の相異があるように思えるが、昭和44、45年調査の周溝検出面であるⅢ層上面は、本調査におけるV層上面に相当するものと考えられる。

### Ⅳ 蝦夷森古墳群

蝦夷森古墳群の古墳の数と位置については図版3の①~⑤までの5基を知ることができる。しかし、この5基も、②と⑤は現存するが、①③④は現存するかどうか不明である。

明治の中葉には40基近くを数え、大正14~15年には16基と報告され、昭和10年には僅かに5~6基その残骸を止めているといった状況で、減少の一途をたどり今日に至っている。

発掘調査はこれまでに3回実施されていて、今回の調査は4回目ということになる。

1 回目は昭和27年に小岩末治氏によって実施され、①の古墳一基を発掘して。

2 回目は昭和44年に板橋源氏によって実施され、②の古墳一基を発掘している。

3 回目は昭和45年に同じく板橋源氏によって実施され、③と④の古墳二基が発掘された。

## V 調査方法

本調査地区は東西に細長く、土捨場を他地区に求められないなどの理由があって、西の方から幅 1.5 ～ 2.0 m、長さ 4 ～ 6 m のトレンチを組み合わせて遺構の検出確認を始めたが、土層の状況が、これまでに知られていたのと異なるため、調査地区約 80 m を 4 等分に区切り、西の方から A-1、A-2、B、C 地区として、各々の地区の全面発掘に切替えた。

基準点(P<sub>0</sub>)は C 地区の南東角に設置し、基準方向は P<sub>0</sub>より西(方向角 266°)方向に決定した。平面位置は P<sub>0</sub>を座標原点とし、基準方向に +90°(方向角 -4°)に座標軸をおく任意座標とした。高さの表示も P<sub>0</sub>を 0 m とする任意水準である。

発掘は第 I 層から層毎に全部人力によっておこなった。旧河川は一部の断面を調査するに止め、埋土全部を発掘しなかった。

実測は、平面図、断面図共 1/20 の縮尺でおこない、写真はモノクローム、カラーリバーサルの各フィルムを使用し、主として 35mm カメラで撮影した。

小笠原謙吉 岩手郡太田村蝦夷森古墳 岩手県史蹟調査報告第 7 号 大正 15 年

小岩 末治 岩手郡太田村蝦夷森古墳調査報告 岩手史学研究第 18 号 昭和 30 年

板橋 源他 盛岡市上太田蝦夷森古墳 盛岡市教育委員会 昭和 45 年

板橋 源他 盛岡市上太田蝦夷森古墳二報 岩手県教育委員会 昭和 46 年

## VI 遺 構

本調査によって検出された遺構(図版 4～10)は、礫群 2、溝 7、旧河川 3、電柱の掘方 1 であった。

**礫群** 礫群は大きく 2 地区にまとめられる。一つは A-2 地区で検出された一群で、大、小の礫がバラバラの状況で検出され、まとまりがないばかりではなく、礫群は A-2 地区における第 3 層および第 3-2 層(この層には木の枝、草、果実などが含まれている。又、今回出土した遺物のほとんどはこの層から出土している。)中に含まれていた。もう一つは、B 地区の北東から C 地区の北西にかけての一群である。礫の検出状況は前者と同様であり、第 1 層下の第 2 層および第 1-2 層上面で検出される溝の埋土の中に含まれている。

**溝** 溝は 2 地区で検出されている。一つは A-1 地区の東半分から A-2 地区の西半分からにかけて礫群を含む第 3 層および第 3-2 層を除去したところ第 4 層上面で検出された東西方向(S-08)の溝と、南方向(S-09)に分岐する溝で、幅 0.1～1.0 m、深さ 0.2～0.4 m、埋土はにぶい黄褐色の細



砂である。もう一つは、B、C地区で検出された溝で、切り合い関係から見て2つのグループに別れる。まづ新しい方は、S-01、S-02と、これらが1本になったS-07である。幅は0.4～1.0m、深さは0.3～0.4m、埋土はにぶい黄褐色の細砂で、徳利か壺の破片と思われる磁器片が出土した。S-07の埋土中には前記礫群が含まれている。次は、S-03、S-04である。幅0.3～0.6m、深さ0.1～0.2mのS-03と、幅0.8～1.3m、深さ0.1～0.3のS-04がある。共に埋土はにぶい黄褐色のシルトである。

**旧河川** C地区においてS-05とS-06の2本に別れていたものが、B地区でS-11の1本になり、A-2、A-1地区にまで広ろがっている。S-06はC地区の西側で深さが約0.9mほどあるが、東側では0.3mと浅くなっている。S-05はC地区の西側で深さは約0.9mほどある。埋土の途中第5層に十和田a降下火山灰の堆積層がある。S-11の西端の一部を発掘したが、現地表から約2mほどで底に至った。

## VII 遺物

今回の調査で出土した遺物（図版11～12）は、少量の土師器片、須恵器片、陶磁器片である。

**土師器** 坏および高台付の坏の破片であるが少破片であるため法量の復元はできない。胎土は浅黄橙色をし、表面はすでに水にとけていて、焼成はかなりあまい。黒斑および内面黒色処理の見られる破片が各1片だけあった。

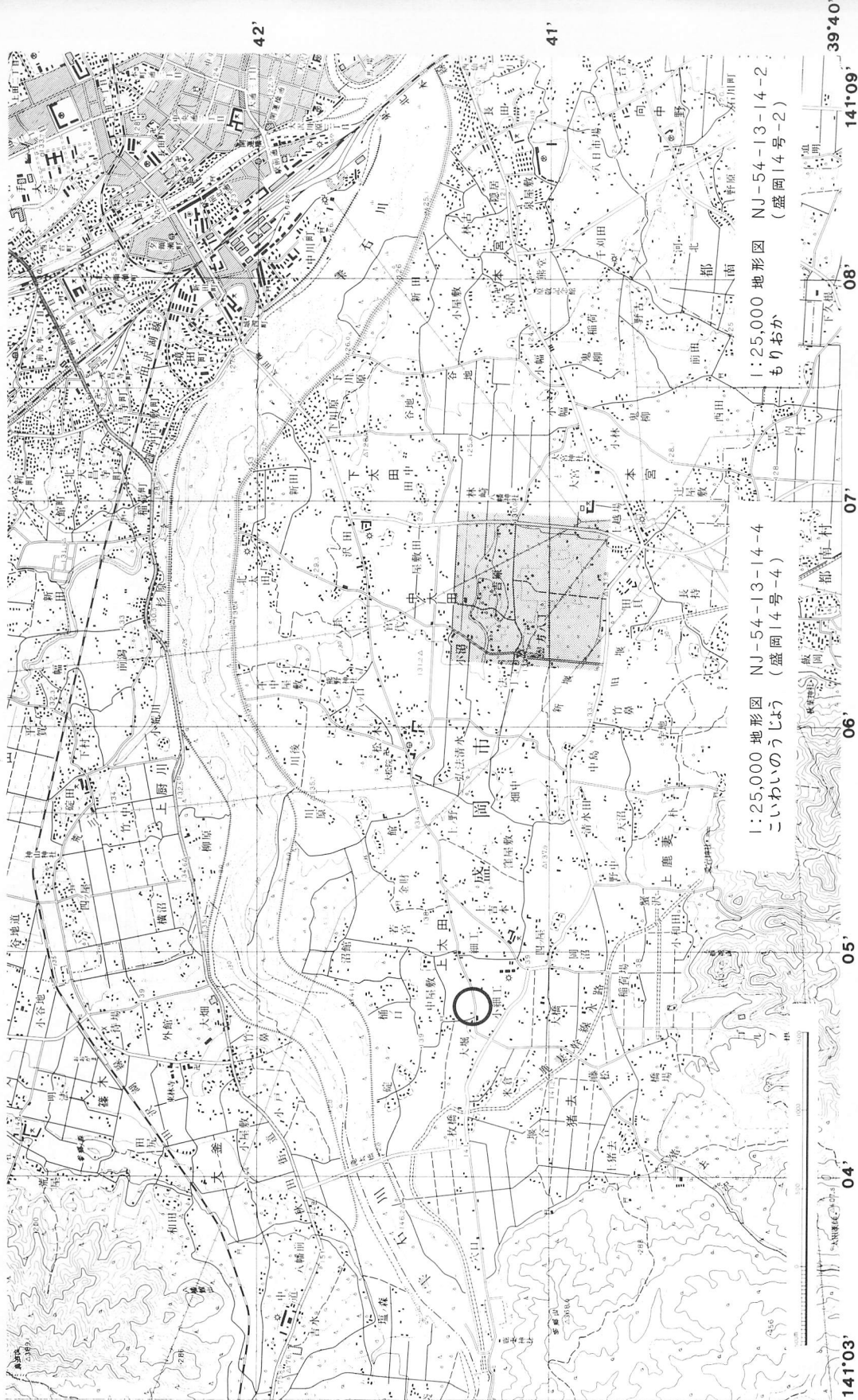
**須恵器** 27片の少破片である。これらは大きく2群に区別できるようである。第1群は水挽成形のもので、胎土は灰色、一部に土器の表面だけ暗赤灰色のものや、にぶい黄褐色の自然釉のかかっているものなどがある。長頸壺の破片であろうと思われる。第2群は、外面にタタキが見られ、内面に青海波文や、当りのスリ消しなどの見られるもので、胎土は暗赤褐色である。あまり大型でない甕の破片であろうと思われる。

**陶磁器** 皿（染付）の破片や、徳利か壺の胴部破片と思われるものなど近世の陶磁器である。

## VIII まとめ

蝦夷森古墳群の範囲は今なお不明である。墳丘を見ることができなくても、周溝や石室の底部が残されている可能性がある。今次調査においても、その可能性に期待したのであるが、意に反して礫石の網状河川の跡を検出した。この旧河川は断面に十和田a降下火山の堆積層が見られることから大旨その年代を推定し得るのである。このことは間接的に古墳群の北辺を知る糸口となるのではなかろうか。

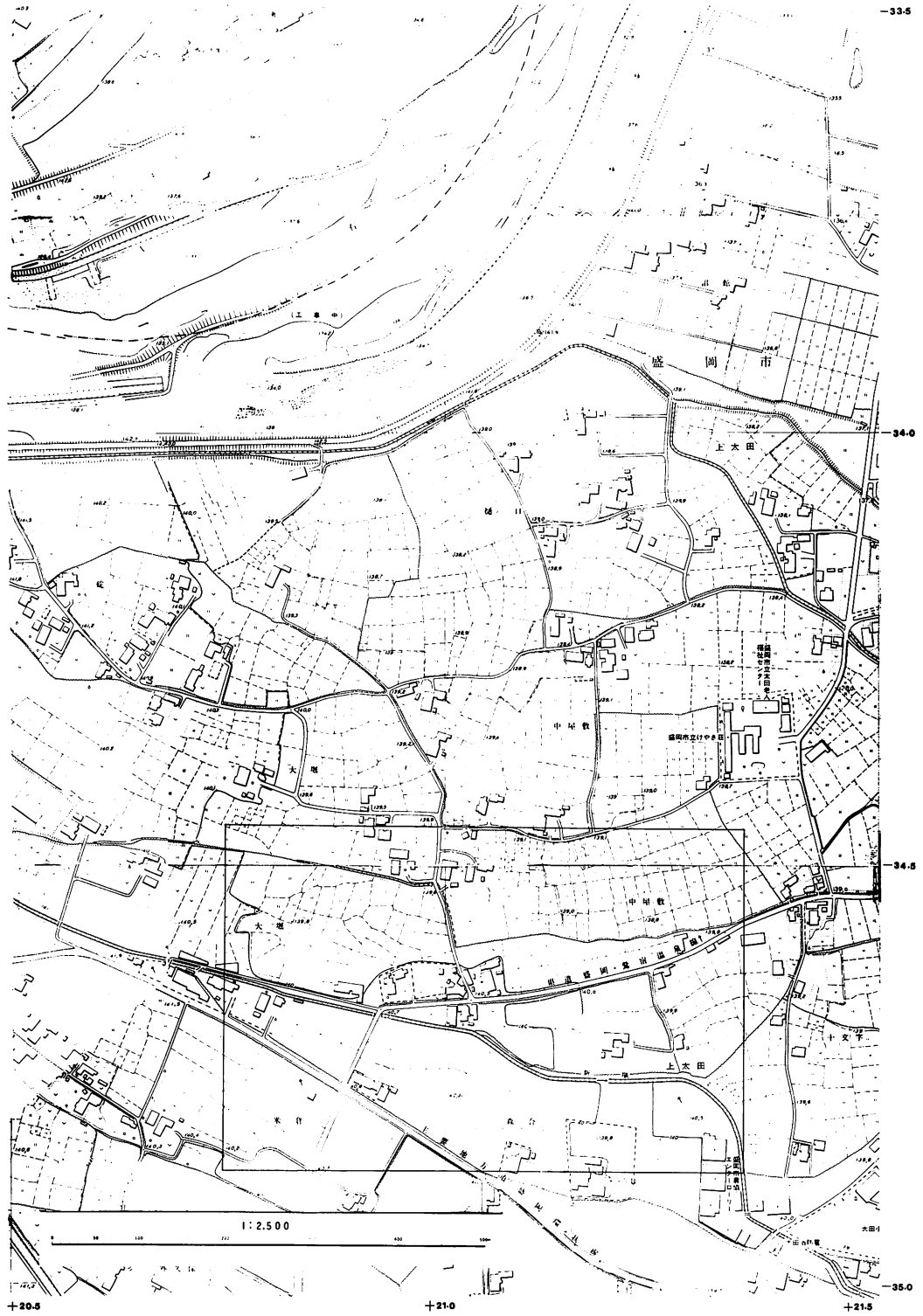
（国生 尚）



図版 1 位置図

○ 蝦夷森古墳群

志波城跡



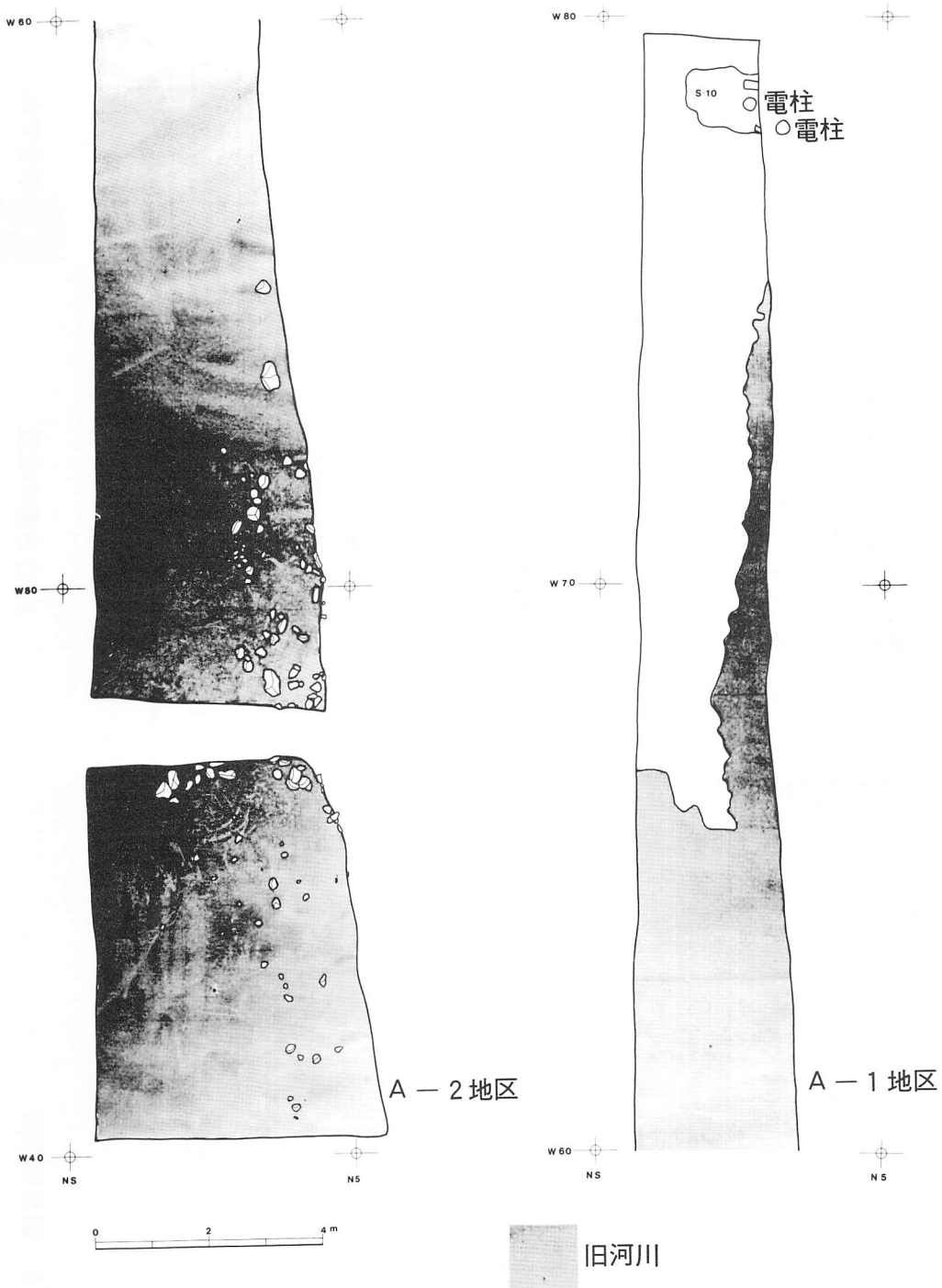
図版 2 地形図



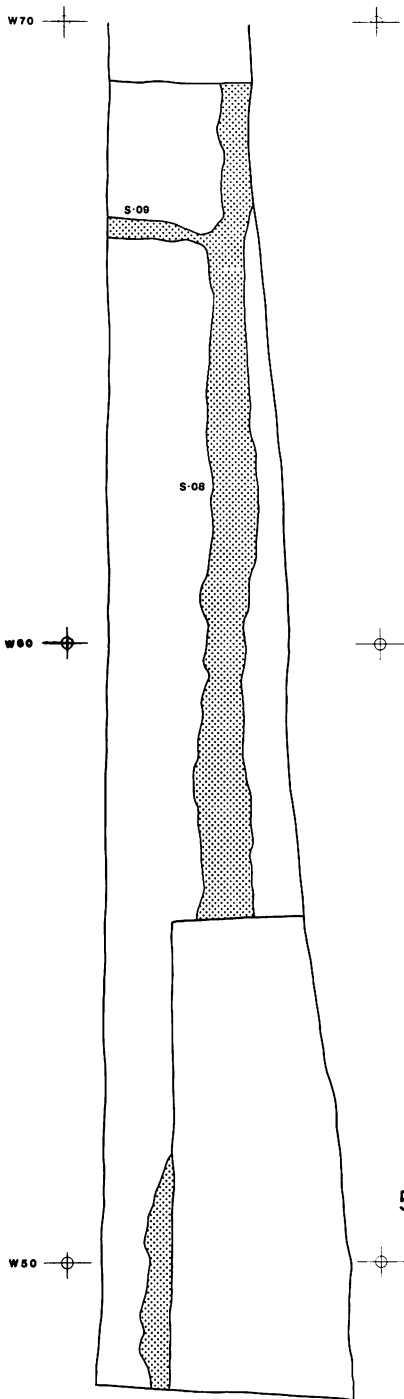
調査範囲

①-⑤ 古墳の位置

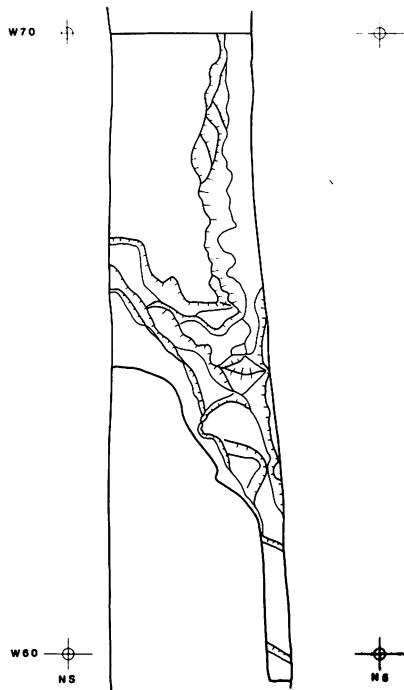
図版 3 調査範囲図



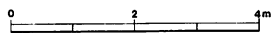
図版 4 旧河川検出状況 (A - 1、A - 2 地区)



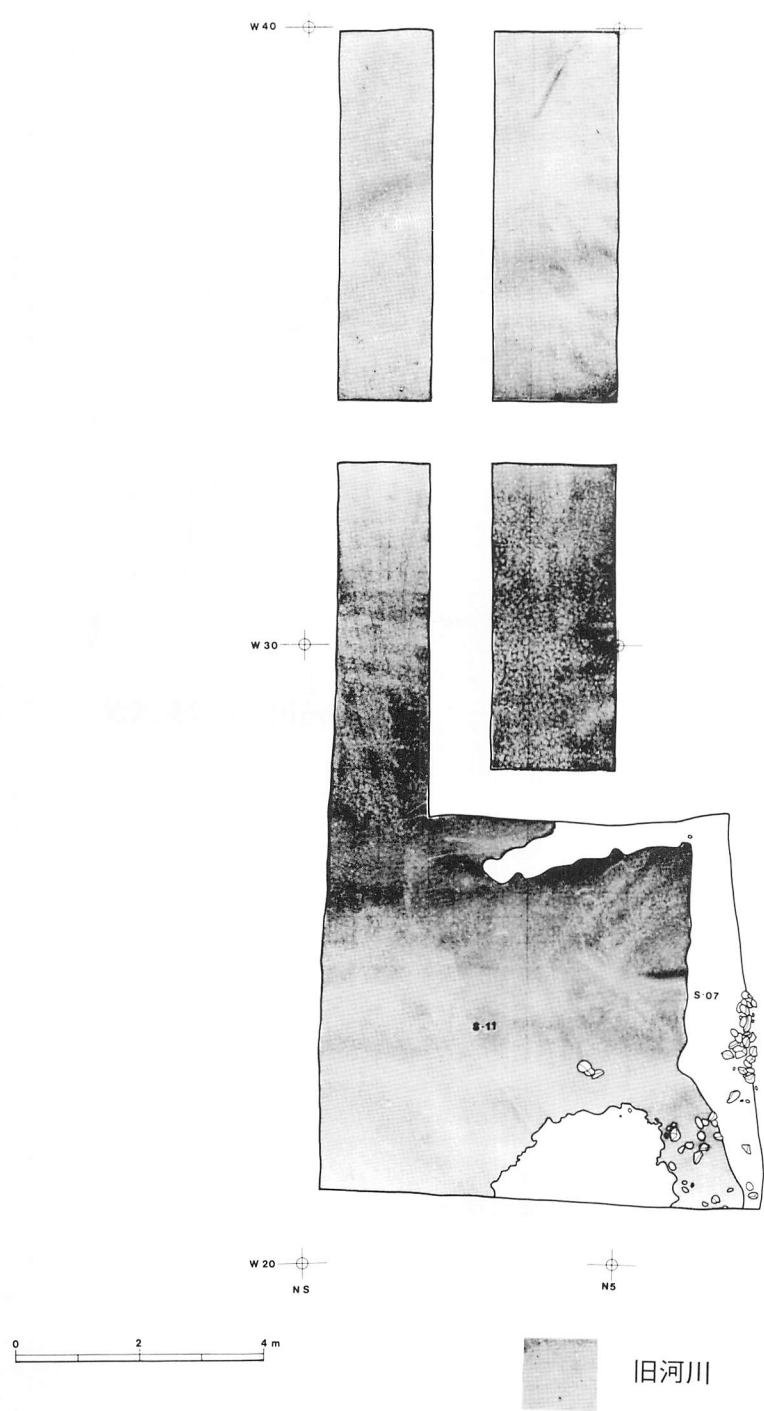
5-1  
溝検出状況



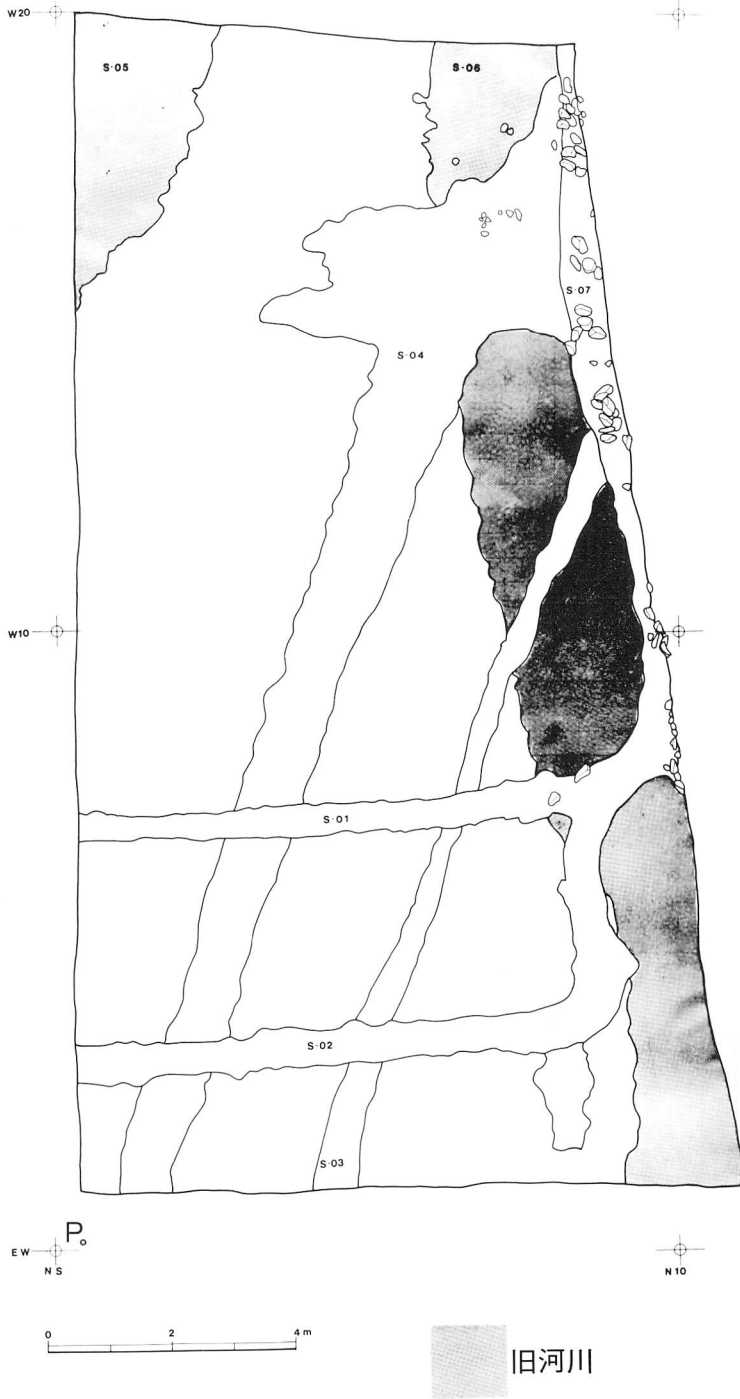
5-2  
旧河川西端発掘状況



図版 5



図版6 旧河川検出状況(B地区)

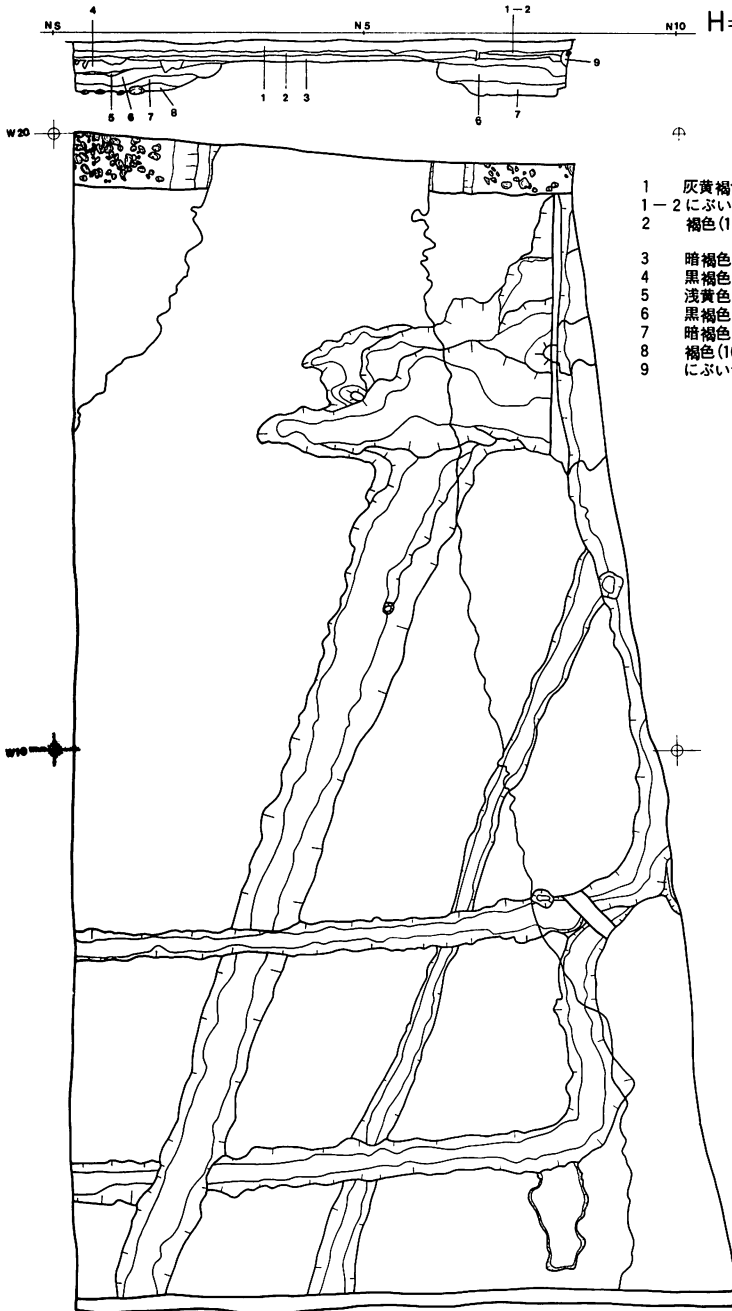


図版 7 旧河川検出状況(C 地区)

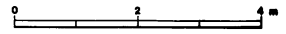


W20 (NS-N10) 断面

H=+0.300m



- 1 灰黄褐色(10Y R 4/2) シルト
- 1-2 にぶい黄橙色(10Y R 6/3)細砂
- 2 褐色(10Y R 4/4) シルト酸化鉄の斑点を多く含む
- 3 暗褐色(7.5Y R 3/3) シルト
- 4 黒褐色(7.5Y R 2/2) シルト少し粘性あり
- 5 浅黄色(2.5Y 7/4) 火山灰
- 6 黒褐色(7.5Y R 2/2) シルト少し粘性あり
- 7 暗褐色(10Y R 3/3) シルト少し粘性あり
- 8 褐色(10Y R 4/6) 粘性あり
- 9 にぶい黄褐色(10Y R 4/3)細砂



図版 8 溝発掘状況



9-1  
遺構検出状況  
(東から)



9-2  
溝精査状況  
(東から)



9-3  
旧河川(S-05)断面  
(東から)

図版 9

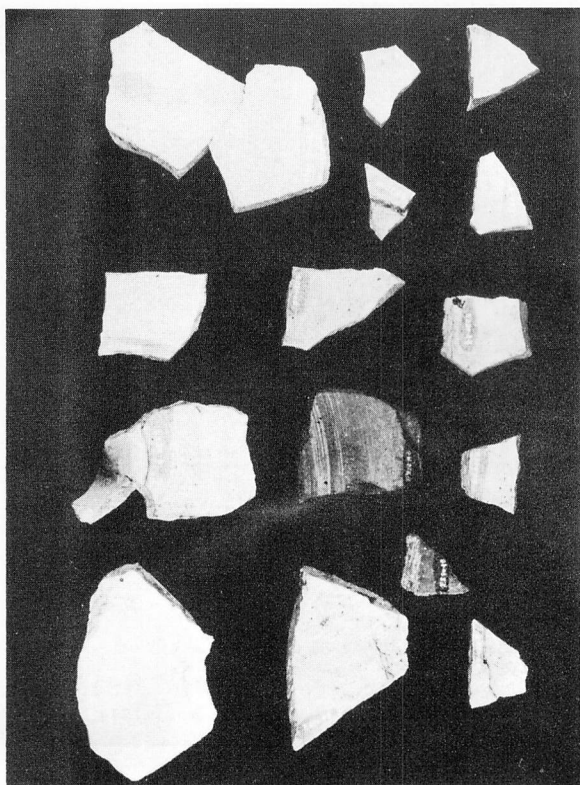
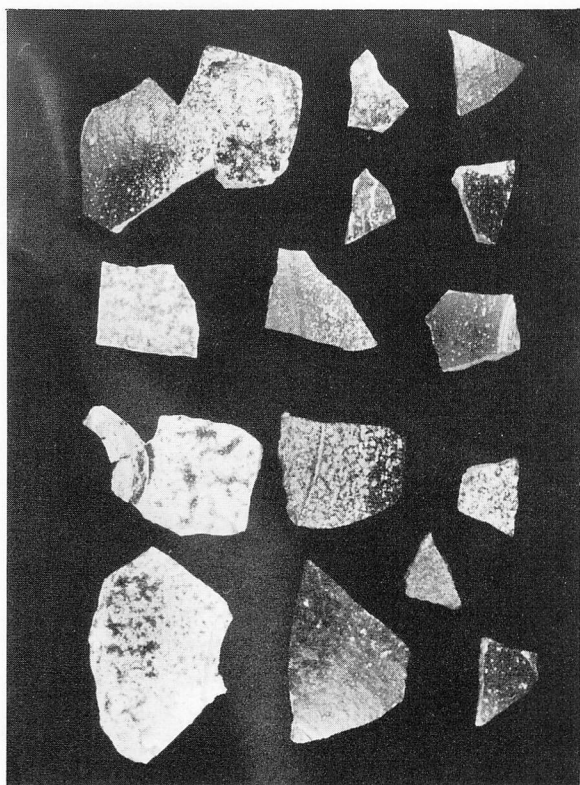


10-1  
A-2地区礫群出土状況  
(東から)

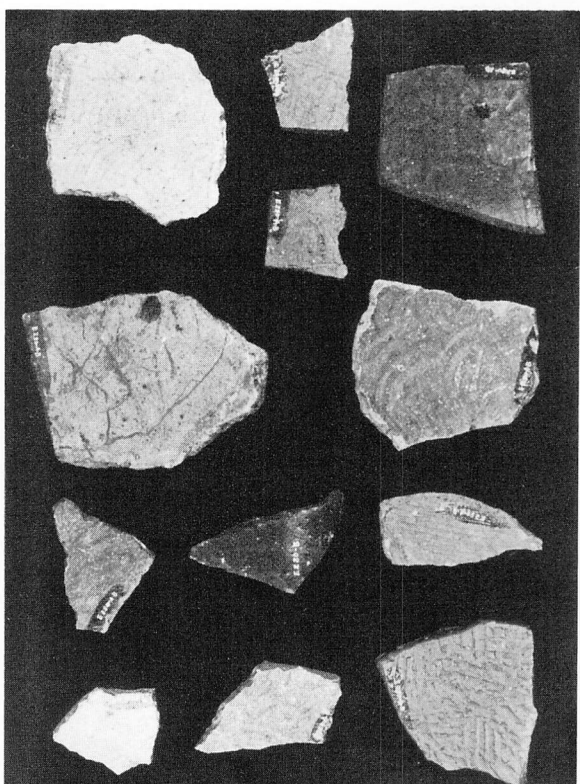
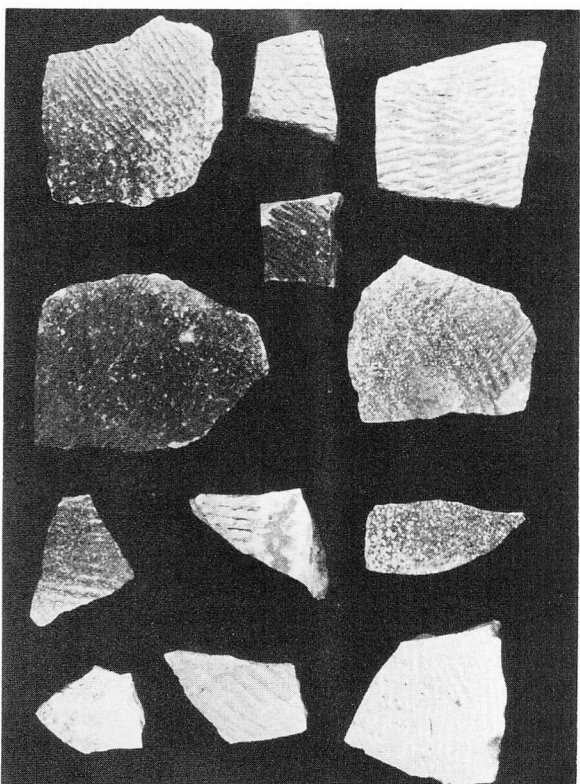


10-2  
B・C地区礫群出土状況  
(西から)

図版10

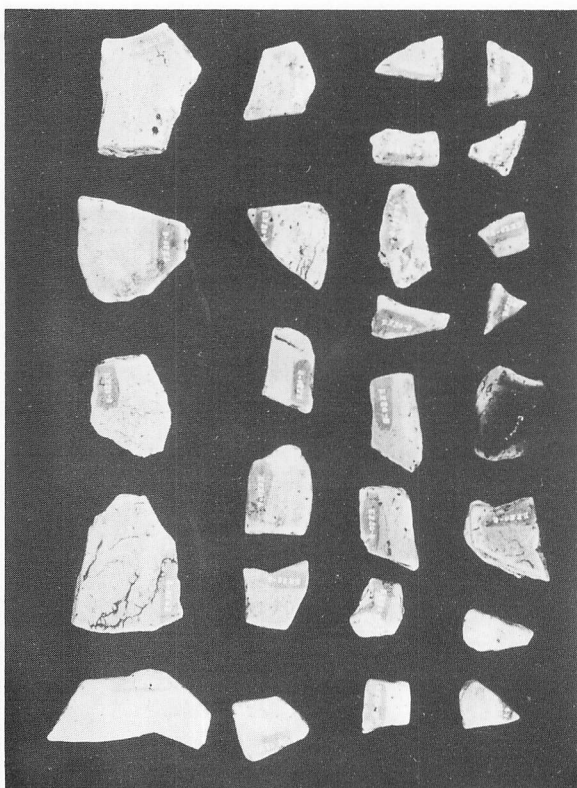
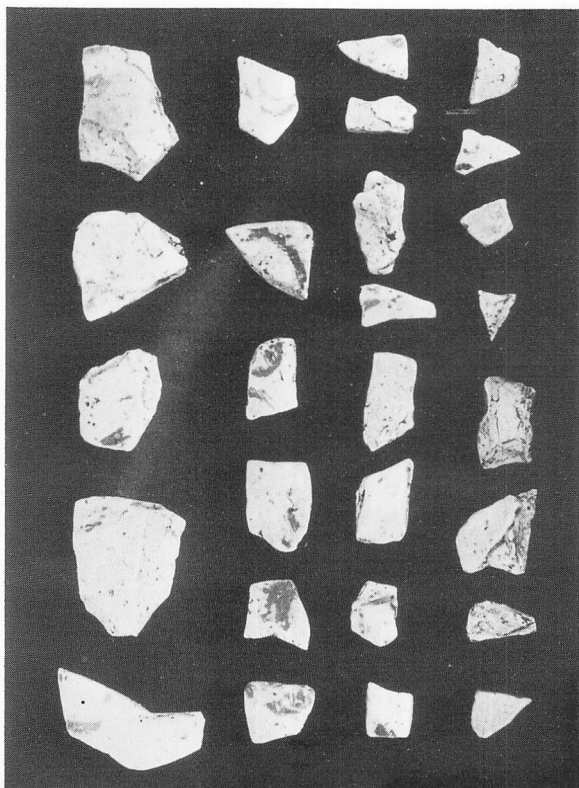


11-1 須恵器片(外面)・(内面)

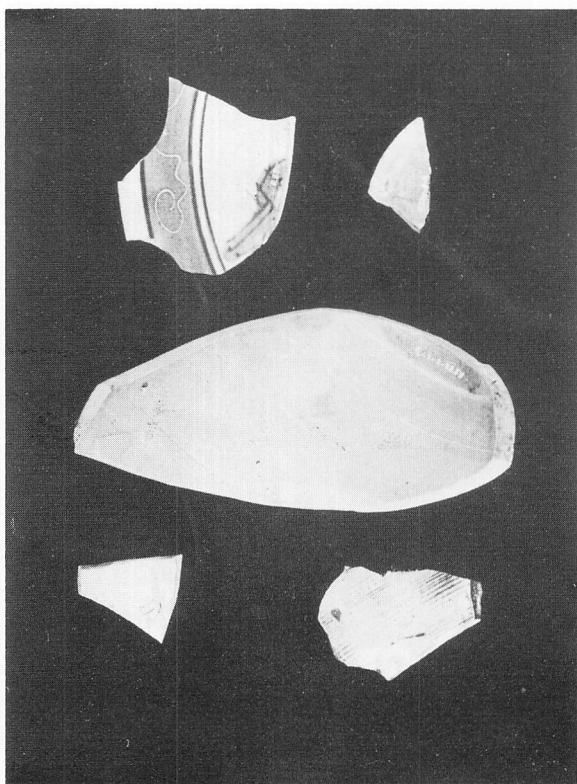
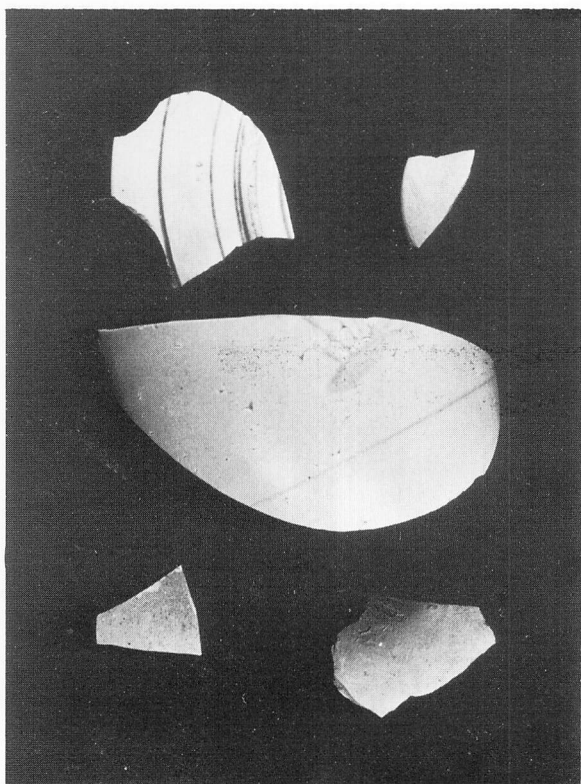


11-2 須恵器片(外面)・(内面)

図版11



12-1 土師器片(外面)・(内面)



12-2 陶磁器片(外面)・(内面)

図版12

---

---

岩手県埋文センター文化財調査報告書 第24集

蝦夷森古墳群第4次発掘調査報告書

— 県道盛岡・鶯宿温泉線改良事業関連発掘調査 —

印刷 昭和56年3月20日

発行 昭和56年3月25日

発行 財団法人岩手県埋蔵文化財センター

〒020 盛岡市向中野字向中野39番1号

☎(0196) 63-6622

印刷 河北印刷株式会社

〒020 盛岡市本町通2丁目8番7号

☎(0196) 23-4256

---

---